

やまびこ 特別号 356号



見てはいるのに見えてない…!?

鶴岡市立図書館の実用書の棚を、今日は何を借りていこうかな…面白そうな本ないかな…と見ているときのことを思い浮かべてみてください。皆さん大体本棚の2段目から4段目くらいを見ていませんか？本棚のその部分の高さにあたる範囲は、スーパーやコンビニなど小売企業の販売戦略で「ゴールデンゾーン」と呼ばれている、注目の集まりやすい範囲になっています。お店では注目の集まりやすさを利用して、新商品や今一番売り出したい商品を置くようです。陳列を見て、お店の意図を考えながらのお買い物も楽しいかもしれません…と話が逸れてしまいましたが、そもそもなぜ注目がその範囲に集まるの？というのは、人体のつくりには秘密があるようです。図書館もお店も、棚を眺めて目当ての物を手に取ってもらいたいと思っている点は同じです。眺める…を考えたとき、最も人の視界に入りやすい場所は目線の20°下といわれています。本を読む・スマホを使うなどの手元を見る活動をするときの目線は20°下になっていませんか？そして眺めたあと、見つけたものを手に取りやすいのは、楽に手が届き・膝を曲げなくてもいい場所です。これでだいぶ範囲が決まってきました。おおよそ胸から腰くらいの高さになるのではないのでしょうか。本棚の2段目から4段目の高さとも一致します。図書館でもゴールデンゾーンは大活躍しているのです。

しかし今回あえてご注目いただきたいのが「ゴールデンゾーン以外の場所」にある本です！目当てのテーマの借りたい本が一番下の段にあるときはしゃがんで念入りに眺めるかもしれませんが、どうしても最下段は視界の範囲外になってしまいます。棚段の高さの都合上、最下段には背が高い本が並んでいます。本が大きい分、写真も大きくきれいで見ごたえのある本が多いのに、視界に入らないからページが開かれない…そんな本たちを手に取っていただけるように、最下段から連れ出してきました。重いし大きいし持って帰れない！という場合は館内でゆっくりご覧ください。重い大きい本にはそれに見合った中身がぎっしり詰まっています！もちろん借りて帰ってお家でじっくり読むのもおすすめですよ！読書の秋のお供にいかがでしょうか…！

= 図書館にある「あらためてご注目いただきたい」本 =

- 『昆虫のすごい世界』丸山 宗利(2018) ●『人類大図鑑 DKブックシリーズ』ロバート・ウィンストン(2006)
- 『政治学大図鑑』ポール・ケリーほか(2014) ●『社会学大図鑑』クリストファー・ソープほか(2018)
- 『宝石と鉱物の大図鑑』スミソニアン協会(2017) ●『世界で一番美しい元素図鑑』セオドア・グレイ(2010)
- 『世界で一番美しい犬の図鑑』タムシン・ピッケラル(2016) ●『世界で一番美しい猫の図鑑』タムシン・ピッケラル(2014)
- 『写真でたどる美しいドレス図鑑』リディア・エドワーズ(2021) ●『地球大図鑑』ジェームス・ルール(2005)

= 今月の誕生鳥 = ハクチョウ

カモ科の水鳥。冬になると普段暮らしている北緯50度以北(シベリアなど)が氷に閉ざされてしまい、餌がとれなくなるため越冬を目的に日本へ飛来する。

～渡りの暮らしを詳しく読んでみる～

・『知って楽しいカモ学講座』
嶋田哲郎／著 森本元／監修



令和6年10月1日発行
鶴岡市立図書館・鶴岡市郷土資料館
〒997-0036
鶴岡市家中新町14-7
(☎) TEL: 25-2525 (郷) TEL: 25-5014
FAX: 25-2526

◎小説・エッセイ

- 猛獣ども (井上 荒野)
- リミックス (今野 敏)
- 作家刑事毒島の暴言(中山七里)
- 日本扇の謎 (有栖川 有栖)
- 猫を処方いたします。3 (石田 祥)
- コード・ブッダ (円城 塔)
- まぼろしの女 (織守 きょうや)
- 死体で遊ぶ大人たち (倉知 淳)
- 彗星を追うヴァンパイア (河野 裕)
- 魔者 (小林 由香)
- 海風 (今野 敏)
- そして誰もいなくなるのか (小松 立人)
- 名探偵の有害性(桜庭 一樹)
- ミステリ・トランスミッター (斜線堂 有紀)
- 星が人を愛すことなかれ (斜線堂 有紀)
- 新しい恋愛 (高瀬 隼子)
- ダブルマザー (辻堂 ゆめ)
- マザー (乃南 アサ)
- タブー・トラック (羽田 圭介)
- 一億年のテレスコープ (春暮 康一)
- 新謎解きはディナーのあとで 2 (東川 篤哉)
- 少女マクベス (降田 天)
- またうど (村木 嵐)
- 岩に牡丹 (諸田 玲子)
- 幸せのカツサンド (山口恵以子)
- おむすび縁結び (山口恵以子)
- 二人の誘拐者 (翔田 寛)
- 三部作 (ヨン・フォッセ)

◎実用書

- 読者としての子ども(松岡 享子)
- 人類の会話のための哲学 (朱 喜哲)
- うちのお寺は浄土真宗 (小松事務所)
- うちのお寺は真言宗 (小松事務所)
- うちのお寺は曹洞宗 (小松事務所)
- 山の神々と修験道(鎌田東二)
- 中学生から知りたい パレスチナのこと(岡 真理)
- アイヌ語地名の歴史(児島恭子)
- あいまいさに耐える(佐藤卓己)
- 夫と妻の70歳75歳からの お金と手続き
- 老後ひとり難民 (沢村 香苗)
- 一般教養としてのサプリメント学 (杉浦 克己)
- みきのミキサーごはん (藤原 美紀)
- 失語症になったら最初に読む本 (中川 良尚)
- 日本半導体物語(牧本 次生)
- ドール服大全ベーシックスタイル (関口 妙子)
- りんごのお菓子づくり (今井 ようこ)
- 本格あんこが作れる本 (大須賀麻由美)
- 買い物の科学 (越智 啓太)
- センスの哲学 (千葉 雅也)
- 定年ランニング (中野ジェームズ修一)
- これで勝てる！サービス戦法 (水谷 隼)

◎児童書

- 10歳からの著作権 (福井健策)
 - すごい人の10歳図鑑 (齋藤孝)
 - 織田信長へタイムワープ (甘夏 柑子)
 - 鳥の親子&子育て図鑑 (小宮 輝之)
 - 空飛ぶクルマ大研究 (中野冠)
 - 22世紀からきたでっかいタイ (木下 政人)
 - 鉄道のひみつ図鑑 (朝日新聞出版)
 - 動画で差がつく！小学生の野球最強のポイント55(大前 益視)
 - サッカー入門 (中村 京平)
 - ルルとララのかみかみグミ (あんびる やすこ)
 - きつねの橋 巻の3 (久保田 香里)
 - 世にもこわい博物館 (黒史郎)
 - 友だちは給食室のゆうれい (草野 あきこ)
- ### ◎絵本
- ぼくのペンギンはどこ？ (サム・アッシャー)
 - アニマルバスといちごむら (あさの ますみ)
 - 恐竜サファリ (いとう みちろう)
 - かぼちゃぞろぞろ (乾栄里子)
 - 森のカプセル探検帳 (飯田猛)
 - ほしじいたけほしほあたけ (石川 基子)
 - くまくんこぐまくんの パナナやさん (乾栄里子)
 - りょこうにいこう！ (五味太郎)
 - はばたいたフトン (サトシン)
 - パンドろぼうとりんごかめん (柴田ケイコ)
 - いじわるブーのハロウィーン (アーロン・ブレイビー)
 - こまったこまった(ふしみみさを)
 - ホネ王ザウルス (山崎 順子)

やまびこ号の次回巡回日は

月 日です

新着図書は上記以外にもありますので、お気軽にお声がけください。新刊は、ホームページでもご覧いただけます。

http://lib.city.tsuruoka.yamagata.jp/



清河八郎と交流のあった、江戸にいた庄内の人たち

先日、東洋大学文学部教授の岩下哲典先生より、清河八郎の旅日記である「西遊草」の中に佐藤与之助についての記述があることをご教示いただいた。恥ずかしながら、これまで「西遊草」については、ほとんど目を通したことがなかったため、清河が江戸にいた庄内人と交流があったことを知らずにいたわけだが、今回はこの日記に登場する、安政年間に江戸にいた何人かの庄内人について紹介したい。

まずは佐藤与之助であるが、この人物は遊佐郡升川村の出身で、同郡大井村出身の真嶋雄之助と共に嘉永6年(1853)に江戸に出府し、翌7年に赤坂の勝海舟塾で西洋砲術を学んでいる。「西遊草」によれば、清河が与之助を訪ねたのは安政2年(1855)8月19日であり、与之助は翌月から勝麟太郎(海舟)に随行して長崎海軍伝習所へ修業に赴くことになっていた。何処かでその情報を得た清河は、与之助が起居していた四谷にある伊藤鳳山邸(酒田出身の儒者。雄之助の縁者となる)を訪ねている。訪問の趣旨は、肥前大村にいる知人への手紙を託したいということだったが、文中、与之助に対し「兼てよりの知合」と記していることから、もともと鳳山を通して面識を得ていたのだろう。なお、清河は勝のことを文中「師匠の西洋家」という表現を使っている。おそらく勝と清河の接点はなかったと思われるが、清河にしてみれば、幕府期待の勝麟太郎などは単なる「西洋家」に過ぎなかったことになろうか。

一方、「西遊草」の記述から2年後になるが、安政4年(1857)5月11日に真嶋雄之助に宛てた清河の書状も確認されている(遊佐真嶋家文書)。清河は前年9月まで郷里清川村の自宅(楽水楼)で著述業に専念していたが、その後、妻となる高代(後のお蓮)と共に仙台城下に移り住み、さらにこの年4月に再び江戸に出て、当初は下谷和泉橋通りに居を構えたという(小山松勝一郎『清河八郎』)。書状の中に「拙者儀又々出府仕り候間、何卒不替昔時之御深熟奉仰候」として、昔と変わらない交わりをお願いしたいとあることから、もともと雄之助とも交際があったのだろう。翌年7月に病を得て、雄之助は国元に戻り、まもなく死去するが、江戸にいて清河と交流を続けていたら、どんな人生を歩んでいたのかとつい思い遣ってしまう。

ところで、「西遊草」によれば、清河は5月1日に志摩国の磯部宿から菊池文蔵・石井助三郎・池田讓輔(駒城)・小関諒蔵という庄内藩士4人に書状を認めている。恐らく庄内藩士のうち親しく付き合っていたのがこの4人で、石井のみが家中(50石)であり、残りの3人は給人だった。このうち池田讓輔は、慶応元年2月(1865)に箱館留守居中役として蝦夷地に赴任したものの、翌2年11月に「大山庄太夫一件」に連座し、国元に戻され処罰された人物であるが、この頃は江戸にいたらしく、7月28日に清河が池田に対して漢詩を贈ったことが記されている。漢詩の文言は記されていないものの、久々の江戸なので、お会いして一献傾けませんか?という内容ではなかったかと想像できる。2人が久々に再会したのは8月13日、共に学んだ安積良斎塾であり、その後も頻繁に会っていたようだが、8月20日には以下のようにも記されている。

池田も老生といへども、さりとして学問もさらに卓越なき故に、憐れむべき事、(中略)然るに我等をしたひ、いろいろの世話もいたし呉れ、またためにも相成る故、時々酒食などにとまなうなり、

要約すれば、「あんまり学問はできないけど、自分を慕ってくるし、色々世話をしてくれるから、たまに一緒に飲んであげている」という感じだろうか。わざわざこんなことを書かなければいいのと思うが、日記の中ではつい本音が出てしまったのだろうか。

その他にも、日記の中では軽格の藩士たちと飲み歩いている記述がある一方で、8月12日、清河は江戸に出府していた中老の石原平右衛門を菓子折り持参で藩邸に出向いている。あいにく石原は不在だったが、この日、清河はこのように記している。

我大藩の政事をあずかるなれば、我心の好みによりて海内に名誉もあげらるべきに、惜しいかな、我庄内よりはさらに人口にわたる豪傑も無く、むなしく世間の望をかくるのみ也、

この年、清河は弱冠26歳だったが、己れを恃む自負は人一倍だったことがこうした文章からも察せられるだろう。その後の清河は皆が知るように、全国の勤皇志士から注目を集めるようになるが、それに従い、庄内人との付き合いは疎遠になったようだ。今回は、ビッグネームになる直前、まだ庄内藩士たちと飲み歩いていた頃の話となる。

(今野 章)

開催のお知らせ

つちだよしはる 紙芝居原画展

展示期間:令和6年 10月22日(火)~11月4日(月・祝)

おいし〜い絵が魅力的なつちだ先生の、最新作を含むとってもおいしそうな5作品の紙芝居原画が図書館2階に大集合!!原画ならではの筆の跡や、素敵な色使い…ぜひ近くでじっくりご覧ください!

展示作品

- 『ゴリくん、なにつくる?』(あべしまこ 脚本 土田義晴 絵 童心社 2024)
- 『へんしん まめまめ』(土田義晴 脚本・絵 童心社 2017)
- 『とちもち もちもち おいしいね』(土田義晴 脚本・絵 童心社 2020)
- 『えほうまき もぐもぐ』(土田義晴 脚本・絵 童心社 2022)
- 『おいしいとびらを とんとんとん』(土田義晴 脚本・絵 童心社 2006)

